



前回、検索内容をさらに深掘りしていくための、体系的なキーワード検索の考え方、アプローチとしての同義語・類似語のチェックについて説明した。今回はさらに、似て非なる同義語・類似語を調べるうえで注意すべき点について、今一步踏み込んで言及してみよう。

第十五話 注意すべき同義語・類似語

同義語・類似語を調べるうえで注意すべきことは、前回も触れたが、似て非なる類似語である。特に、専門知識に欠ける門外漢にとって、厳密な定義がなされている法律用語、学術用語などの専門用語については、辞書や事典でチェックする姿勢が求められる。

例えば、福島原発事故で話題になった「放射線」と「放射能」、「震度」と「マグニチュード」、「警報」と「注意報」、放射性物質の「除染」と「除去」などなど、我々が普段は気にせず知っている用語も、時と場合によってはきちっと調べて、勝手に誤解しないように、努めなければならない。

この他にも誤解しやすい専門用語は少なくない。腐敗の原因ともなる微生物に関する「細菌」と「真性細菌」と「バクテリア」の3つは同義語である。誤解しやすいのが、「真菌」と「細菌(真性細菌)」であり、この両者は別物なのである。

素人が誤解しやすい専門用語も少なくない。例えば、「狂犬病」である。世界中で毎年5万人以上が死亡する「狂犬病」は、ネコ、家畜、野生動物も感染源となる感染症であり、「人獣共通感染症」の一種である。同義語に「恐水病」もあるが、あまり知られていない。

ちなみに、2006年8月に、ニューヨーク市内で人を噛んだネコから狂犬病ウイルスが検出されたとして、ニューヨーク市保健精神衛生局が注意喚起情報を発したという。WHOによれば、年間の死亡者数推計(2004年では5万5000人に達している。日本では忘れられた感染症であるが、アジアやアフリカへの渡航者は、外務省、厚生労働省、現地の日本大使館のサイトを事前に調べておくことが、大切である。

偽装表示が社会的問題となった2005年当時、回転寿司店での寿司ネタの偽装表示が問題視された。この「偽装魚」の同義語には、「代用魚」、「代替魚」、「開発魚」などがあるが、世間的な善し悪しのイメージには、かなりの温度差がある。世間一般でのイメージ的に悪い方から良い方へと順に並べると、「偽装魚」、「代用魚」、「代替魚」、「開発魚」の順になる。興味高いことに、「開発魚」になると、悪いイメージどころか良いイメージの用語になる。

「偽装魚」で検索すると、寿司ネタの偽装表示問題が多く検索されるが、「開発魚」で調べると政府が水産資源の確保のために輸入漁の開拓に取り組んでいる話題が中心に検索される。世界的な食糧難の時代を迎え、「開発魚」は国策とすべき重要課題になっている。

ネット検索において、検索する用語について同義語・類似語を調べることの意義は、目的とするサイトを的確に探すこと以上に、検索の範囲を少し広げてプラス α の情報を入手することにある。異なる視点を提供してくれる同義語・類似語は、探すのに手間暇がかかる場合も少なくないが、大事にしなければならない。

プラス α を提供してくれる同義語には、海外で使用されているアルファベットなどで表記される日本語がある。例えば、「秋田犬」と「AKITA (アメリカン・アキタ)」、「和牛」と「WAGYU」、「PHS」と「小霊通」(発音は、シャオ・リン・トン) などなど。

「秋田犬」は大型犬であり、日本では小型犬好みのペットブームのため数が減り存続の危機が叫ばれているが、「SKITA (アメリカン・アキタ)」は、海外で愛好家が増え、その数も増えているのである。

「WAGYU」は、日本の「和牛」がアメリカやオーストラリアで生育されるようになったもので、「WAGYU」ブランドでオーストラリアから香港や中国ほかにも輸出されている。これに対して、日本の畜産業界では「和牛」ブランドをどう守り育てるかが、大きな問題になっているという。

日本での「PHS」は、1995年に発売され、当時は価格の安い携帯電話として一時人気を博した。中国に渡った「PHS」は「小霊通」と呼ばれ、中国国内で広く普及し、2006年末当時には、9000万人強も利用者がいた程の大成功を収めたのである。

このように、海外での呼称を使用すると、海外の事情が反映された内容が簡単に入手でき、日本とは大きく異なる事情が入手でき、興味深いのである。検索する上で注意すべきは、{WAGYU}ではなく、{WAGYU 和牛}、{WAGYU オーストラリア}というように日本語ほかの用語と合せて検索すると、うまく検索できる場合が多い。

さて、グローバル化の進展により、スポーツの試合も国際試合が増えている。例えば、日本と韓国の試合は、大きく取り上げられる場合がある。この試合の表記は、日本や日本人では「日韓戦」であるが、韓国や韓国人による表記は「韓日戦」となっている。

表記の仕方ひとつで、情報源が推測でき、いずれのサイドを肩入れしている内容であるかを予想できる。2011年8月、フジテレビのスポーツ番組で、日本対韓国のスポーツ(サッカー他)の対戦標記を「韓日戦」と誤って(?)表示し、世間の批判を浴びた。フジテレビが「韓流ドラマ」に肩入れ過ぎているという批判の巻き添えをくった形となった。

スポーツの場合とはともかく、戦争や領土問題に関わる場合は、この表記の違いは深刻化する。1982年に起こったイギリスとアルゼンチンとの戦争「フォークランド紛争」は英語圏の呼び方であり、スペインやポルトガル圏では「マルビナス戦争」と呼ばれている。

日本と韓国、日本と中国でも同様の問題が存在している。「日本海」の表記は、日本をはじめ欧米諸国でも広く使用されている(英語表記は「Sea of Japan」または「Japan Sea」)が、韓国政府は「東海(동해)」、「East Sea」(英語表記)を主張し、欧米諸国や国際機関にも、この表記に変更するように強く働きかけてきている。

韓国を巻き込んでの日本と中国の戦争の「日清戦争」の場合、「First Sino-Japanese War」、「第一次中日戦争」、「甲午戦争」、「Sino-Japanese War of 1894-1895」、「明治二十七八年戦」、「明治二十七八年戦役」などの同義語がある。

国際紛争などの場合は、それぞれの立場からの情報を得ることが重要であり、情報源が問われることになる。この異なる情報源から情報を入手する場合には、上述のような同義語を探し、ウェブ検索することが、重要になる。

今回は、シソーラスの「上位語」と「下位語」について、紹介することにする。「上位語」は検索範囲を広げ、「下位語」は狭めるうえで、重要な働きをするのである。